

令和3年度 学校評価結果

(4 十分達成されている 3 おおむね達成されている 2 あまり達成されていない 1 達成されていない)

共通評価項目	観点	対象	回答数(人)		達成基準					平均
			合計	回答数(%)	4	3	2	1	0	
1 学校運営	教育方針や指導の重点が明確であり、適切な教育活動が営まれている。	教職員	合計	16	6	10	0	0		3.4
			%		37.5	62.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	120	40	73	6	1		3.3
			%		33.3	60.8	5.0	0.8		
2 学習指導	子どもに学ぶ喜びを体験させ、確かな学力の向上を図るわかる授業づくりに努めている。	教職員	合計	16	3	13	0	0		3.2
			%		18.8	81.3	0.0	0.0		
		保護者	合計	120	39	72	9	0		3.3
			%		32.5	60.0	7.5	0.0		
		児童生徒	合計	147	52	71	20	4		3.2
			%		35.4	48.3	13.6	2.7		
3 生徒指導	子ども一人一人を深く理解し、たくましく成長できるよう指導・支援に努めている。	教職員	合計	16	10	6	0	0		3.6
			%		62.5	37.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	121	34	71	14	2		3.1
			%		28.1	58.7	11.6	1.7		
		児童生徒	数	147	84	56	6	1		3.5
			%		57.1	38.1	4.1	0.7		
4 いじめ防止対策	「学校いじめ防止基本方針」を広報するとともに、地域・保護者との連携を図りながら、当方針に基づき、いじめの未然防止、組織的な認知・対応に努めている。	教職員	合計	16	10	6	0	0		3.6
			%		62.5	37.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	117	34	68	12	3		3.1
			%		29.1	58.1	10.3	2.6		
		児童生徒	数	147	98	33	12	4		3.5
			%		66.7	22.4	8.2	2.7		
5 特別活動	多くの子どもたちが活躍できるよう工夫され、内容が充実している。	教職員	合計	16	11	5	0	0		3.7
			%		68.8	31.3	0.0	0.0		
		保護者	合計	124	38	70	13	3		3.2
			%		30.6	56.5	10.5	2.4		
		児童生徒	合計	147	95	43	6	3		3.6
			%		64.6	29.3	4.1	2.0		
6 安全管理	子どもたちが安全な生活を心がける指導や訓練に努めている。	教職員	合計	16	9	7	0	0		3.6
			%		56.3	43.8	0.0	0.0		
		保護者	合計	121	53	65	3	0		3.4
			%		43.8	53.7	2.5	0.0		
		児童生徒	合計	147	109	32	6	0		3.7
			%		74.1	21.8	4.1	0.0		
7 健康・体力	子どもの健康増進や体力向上のために、適度な運動や食などの適切な生活習慣形成に努めている。	教職員	合計	16	2	14	0	0		3.1
			%		12.5	87.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	122	51	67	3	0		3.4
			%		41.8	54.9	2.5	0.0		
		児童生徒	合計	147	77	51	16	3		3.4
			%		52.4	34.7	10.9	2.0		
8 小・中連携 小中一貫教育	近隣小・中学校との連携のもと、9年間を見通した教育活動を充実させているとともに、地域の教育力の活用を図っている。	教職員	合計	16	8	6	2	0		3.4
			%		50.0	37.5	12.5	0.0		
		保護者	合計	116	34	68	13	1		3.2
			%		29.3	58.6	11.2	0.9		
9 特別支援教育	特別な教育的支援を必要とする子どもへの適切な指導・支援に努めている。	教職員	合計	16	6	10	0	0		3.4
			%		37.5	62.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	91	37	50	3	1		3.4
			%		40.7	54.9	3.3	1.1		
10 教職員の研修	自らのキャリアステージに応じて求められる教員としての資質能力の向上を図るため、校内外の研修に積極的に取り組むなど、常に学び続けようとしている。	教職員	合計	16	2	14	0	0		3.1
			%		12.5	87.5	0.0	0.0		
		保護者	合計	91	34	51	5	1		3.3
			%		37.4	56.0	5.5	1.1		
11 保護者・地域住民との連携	地域の教育力を積極的に活用するとともに、保護者や地域住民からの意見や要望を教育活動の改善・充実に役立てるように努めている。	教職員	合計	16	12	4	0	0		3.8
			%		75.0	25.0	0.0	0.0		
		保護者	合計	104	30	60	12	2		3.1
			%		28.8	57.7	11.5	1.9		
12 広報・情報提供	学校ホームページや学校便り等を通して、家庭や地域の人への、本校の教育活動の周知・理解に努めている。	教職員	合計	16	12	4	0	0		3.8
			%		75.0	25.0	0.0	0.0		
		保護者	合計	129	50	72	5	2		3.3
			%		38.8	55.8	3.9	1.6		

学校評価に係る保護者のコメント及び学校からの回答

青森市立横内中学校

- Q1 ; 給食のフードロスに関する取り組みをして欲しい。
- A1 ; 貴重なご提案、ありがとうございます。フードロス問題を含めた食育について、本校では「給食指導全体計画」の中で、「食物を大事にし、食にかかわる様々な人々へ感謝する気持ちを持たせる」ことを重点の一つとして位置づけ、給食時だけでなく、社会科の公民的分野、家庭科の「食物」の単元などで扱っております。フードロス問題については、持続可能な社会を創り上げる上で避けて通ることのできない問題ですので、今後も、様々な場面で取り上げながら、子どもたちの理解を促し、持続可能な社会の担い手として考えさせて参ります。
- Q2 ; コロナ禍の中、昨年度から保護者が学校へ行き、校内を見たり子供達を見る機会が少なくなり残念に思っています。先月文化祭のお昼に子供達がお弁当を黙食して食べている姿を見て感心し、もっと学校内で頑張っている楽しんでる日常を発信してほしいと思いました。
- A2 ; 貴重なご提案、ありがとうございます。本校では、学校での子どもたちの様子を広く知っていただくために、学校ホームページや学校だより、授業参観日、学校行事などにより情報発信に努めております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、外部の方の訪問を制限せざるを得ない状況が続いており、残念に思っている次第です。本校生徒たちが一生懸命学習や行事に取り組む姿は、保護者や地域の方々に信頼される学校をつくりあげるためにも重要であると考えており、今後も、方法を工夫しながら情報発信に努めて参ります。
- Q3 ; もっと横内中学校の良さを市内全体に広めて中学生の人数を増やした方がいいと思う。
例えば、制服は市内で1番可愛い、かっこいいと思うし、学校ジャージだってメーカー（ブーマ）の入った物ってなかなか他の中学校では見ないし。
人数がいないと部活も団体競技とか難しくなるし、横内中学校をもっとPRして人数増やした方がいいと思う。
- A3 ; 貴重なご提案、ありがとうございます。本校では、よりよい学校をつくるため、習熟度別学習やA1ドリルの活用、様々な場面でのICT活用、文化祭でのボディ・パーカッションの実施、中国大連市との交流（コロナの影響でここ2年は実施していませんが…）など、様々な特色ある教育活動を行っております。先日報道された制服の選択制もその一つです。これらの教育活動については、市内中学校の管理職や中核教員、教育委員、市議員などが視察に訪れるなど、徐々にではありますが、認知されていると認識しております。今後も、本校の特色を、学校ホームページや学校だよりなど、様々な方法で発信し、多くの方々に横内中の良さを知っていただくことができるよう努めて参ります。
- Q4 ; 子供たちが背負うカバンが私たちの時代では考えられなかったほど重く、(例えば猫背になる、腰痛など)成長期の過程で体の負担が大きいと思うので、それぞれの学期に分けて必要なところだけファイリングするなど、工夫して改善できたら良いと思います。
荷物が多すぎて大変そうです。
ザック重すぎ
- A4 ; 貴重なご意見、ご提案、ありがとうございます。同様のものが複数ございましたので、まとめて回答いたします。本校では、中学校に入学して荷物や教材の量が多くなり、持ち運ぶことが負担になるという問題を軽減するために、数年前より一部の教科書及び教材を学校に置いておくようにするなど、対策を講じて参りました。また、今後、デジタル教科書の普及により、教

科書を持ち歩くことがなくなる教科も出て参ります。また、来年度から採用する新しいスクールザックは、身体に触れる背中部分のクッション性が向上し、また、身体バランスをとりやすいようチェストベルトを備えた仕様になっております。生徒の荷物の負担の軽減については、今後も校内で検討を進めて参ります。

Q5 ; 雪が降る時期なので、身体を動かす時間が、よりいっそう少なくなると思います。休み時間が短い事で、ストレスがたまることが、多くなると思います。休み時間を月に2度ほど、30分拡大して、体育館を開放し、身体的にリフレッシュできるような時間を作れば良いのでは？と思います。体育の授業とは別に子供たちがやりたいスポーツをやらせればいかがかと思いましたが。

A5 ; 貴重なご提案、ありがとうございます。本校では、例年昼休みを20分間確保し、生徒たちが休憩したり、体育館で遊んだりする時間を設定しております。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、身体的距離の確保や、大きな声を出す活動、ボール等の用具の共有等、細心の注意を払う必要性から、昼休みに体育館を開放することのリスクが大きいと判断し、その結果、昼休みを短く設定したところです。新型コロナが収束し、コロナ前のような状況に戻った場合には、昼休みの延長なども検討することとしておりますので、ご理解ください。

Q6 ; 参観日がなく、学校の様子を見る機会がなかった。オンラインでの配信など考えていただきたい。発表もいつも同じ生徒がやっていて、平等だと思えない。内申書に書く内容が多い子と少ない子がいるのではないか。

※横中祭の時、家族4人で来校した家族もあったようだ、人数制限があるのになぜか？受付をどうやって通ったのか。他の保護者が守っているのに守らないのはおかしいと思う。

中間テストがなくテスト範囲が広くなり、塾との調整が大変になった。テスト3日前に範囲が変更になったようだが、日程調整が大変すぎる。勉強に関しては、学校より塾に頼っている。すらら等をオフラインでも使えるようにしてほしい。

A6 ; 貴重なご意見、ありがとうございます。

【参観日について】

授業参観については、新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、第1回目は集合開催をせずに、ホームページ上に全ての学級の授業の一部を動画として掲載しました。2回目、3回目は、通常通りの参観日を実施できましたが、これから迎える4回目については、2月の3学年はホームページ上に、複数の授業の様子を動画にしてアップすることとしており、3月の1、2学年についても、現在検討中です。本来であれば、保護者や地域の方々に学校に足を運んでいただき、生徒の頑張る姿を実際にご覧いただきたいところですが、現在の社会情勢を鑑みご理解ください。

【生徒の発表機会について】

本校では、生徒の表現力向上を目的として、様々な場面でスピーチやプレゼンテーションなどの発表活動を行っております。実際に発表するのは代表生徒になりますが、それ以前に、全ての生徒が表現したものをもとに、代表生徒を選出しており、学校では全ての生徒の作品等に目を通してあります。よって、代表として発表したかしないかが、調査書の記載や高校受検に影響することはありません。

【横中祭での保護者の入場制限について】

【「※印」のご意見については、個人が特定されるような表記でしたので、表現を変えて掲載させていただきました。】横中祭については、新型コロナ感染拡大防止の観点から、来賓、地域の方々、小学生等の来校を控えていただくとともに、保護者の人数も制限したところです。しかしながら、今回、受付体制に問題があり、制限人数以上に入場したご家族があったとの報告を

受け、校内でもその原因を検討し、次年度に向けて対策を練っているところです。この件については、保護者間での不公平感を生むことにもつながることから、学校といたしましても重視しており、今後、様々な学校行事においても、このような事案が発生しないよう配慮して参ります。

【テストについて】

本校では、学校課題の一つに「学力向上」を掲げ、基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成、家庭学習習慣の定着などのために様々な手立てを講じております。その一環として、これまでの中間・期末・実力テストの在り方を検討し、今年度より到達度テスト、学期末一斉テスト、進路対策一斉テストを実施しております。中でも到達度テストについては、単元や一定の学習内容のまとめり毎にテストをして定着度を測るとともに、再チャレンジ制により生徒が目標点に到達できるよう配慮しております。その成果として、通知票の「4、5」の割合が増え、「2」の割合が減るなど、基礎基本の定着や学力向上に一定の成果があったと認識しております。今後も、テストを含む学習評価の方法については、校内で検討を重ね、学力向上につながる学習評価方法を確立して参ります。

【「すららドリル」について】

上でも述べたとおり、本校では学力向上策の一環として、生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びを実現するために、AIが生徒の学習状況に応じた問題を提供する機能を備えたAIドリル「すららドリル」を今年度から採用しております。「すららドリル」の活用により、生徒の家庭学習の時間が長くなったことがわかっており、今後も家庭学習習慣の確立や、基礎基本の定着が期待される場所です。「すららドリル」は、AIが生徒の学習状況を判断し個別の問題を配信するという機能や、教師が生徒の学習状況を把握すること、教師が生徒に問題やプリントを配信することなど、多様な機能を備えていることから、オンライン環境下での活用を前提としております。オンライン環境が整っていない生徒については、プリント等で同様の学習ができるよう配慮している場所です。学校としては、今後も「すららドリル」を活用し、生徒の学力向上に努めて参ります。

Q7 ; 子どもたちのためになる授業を行って欲しいとおもいます。

A7 ; 貴重なご意見、ありがとうございます。本校では、学習指導要領に則り、「基礎基本の定着」と「思考力・判断力・表現力の育成」を目指して授業を行っております。「基礎基本の定着」については、基本的な知識や技能を確実に習得させるために、ワークブックや「すららドリル」を活用して定着に努めております。また、「思考力・判断力・表現力の育成」については、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の手法により、話し合い活動や意見発表、発表活動などをおして問題を解決する学習を取り入れております。また、教員自身も「授業改善月間」や「見せ合い授業」「市教委による学校訪問」「各種研修講座の受講」などを通して「わかる授業」「楽しい授業」を目指し、日々研修に努めております。今後も、生徒たちが学習に主体的に取り組めるよう、また、授業を通じて学力向上が図られるよう、学校を挙げて努力して参ります。

Q8 ; 学区が広い為、車で送り迎えの生徒も多いと思われれます。帰る時間に送迎の連絡を取るだけで構いませんので、携帯電話の所持を許可していただきたいです。

A8 ; 貴重なご意見、ありがとうございます。学校における携帯電話の取扱いについては、令和2年7月、文部科学省から「携帯電話は、学校における教育活動に直接必要のない物であることから、中学校においては、学校への生徒の携帯電話の持込みについては、原則禁止とすべきであること。なお、(中略)個別の状況に応じて、例外的に持込みを認めることも考えられること。」と通知が発出されております。本校においても、携帯電話の持込みについては原則認めておりませんが、健康状態等個別の状況に応じて、例外的に認めております。その際には、登下校中

の使用はしない、校内では職員室に預けるなどの条件を設けております。どうしても携帯電話の持込みが必要な場合は、個別にお問い合わせください。

Q9 ; いけないことはダメとちゃんと叱るべき。

A9 ; 貴重なご意見、ありがとうございます。生徒指導の目的は「自己指導力の育成」です。本校としても、「生徒指導の充実」は学校課題の一つであり、生徒たちが変化の激しい社会を生き抜く上で、主体的に法を遵守し、自他を大切にしながら逞しく生きていく素地を培うことが大切であると認識しております。生徒指導上の問題が生じた際には、命や人権に関わる問題については、毅然とした姿勢で対応することとしております。また、生徒指導上の事案については、事案毎、個人毎により、抱える事情や原因が様々であることから、生徒の内面に訴え、生徒が主体的に改善できるよう働きかけているところです。今後も、生徒一人一人の内面に働きかけながら、生徒の「自己指導力」が向上するよう、生徒指導の充実に努めて参ります。

Q10 ; 給食の時間が短く、食べきれないそうです。長くして下さい。

A10 ; 貴重なご提案、ありがとうございます。本校では、給食にかかる時間を、準備15分、食事15分、後始末10分の計40分で設定しております。他校に比べ比較的長い時間で設定しており、中学校生活に慣れていくにしたがって、準備や後始末に要する時間が短縮され、ゆっくり食事ができるようになっていくと認識しております。しかしながら、食事に費やす時間は、生徒一人一人の体格や体調等により左右されることから、学級においても、各自の食事に費やす時間に配慮し、仮に食事に長い時間がかかっても、嫌な思いをすることなく全ての生徒が、美味しく楽しい給食時間を過ごす環境を整えることが重要であると考えます。今後も、給食の時間設定についても検討しながら、全ての生徒にとって給食時間が楽しい時間になるよう配慮して参ります。